

例 言

- 一 本書は市制五 周年を記念して編集した「ぶぜん祭り」をテーマとした冊子です。
- 一 本書の編集にあたり、段上達雄氏(別府大学教授)に民俗学的分野での指導を受けました。
- 一 ここでいう「祭り」とは民俗芸能、祭礼を中心に、一部儀礼に関わるものも含みます。また、調査は地域で特徴のある祭りを対象としたため、市内の全ての祭りを網羅したものではありません。
- 一 今回調査対象としたのは現在伝承されている「祭り」とし、重要な祭りでありながら途絶えたものについては必要に応じてその概要を記しました。
- 一 調査にあたっては各地域の氏子、関係者の方々にご協力を頂きました。
- 一 編集にあたり前半は民俗学的視点による記録とし、後半は写真を中心に楽しくめる内容としました。
- 一 本書に掲載した写真は豊前市教育委員会所蔵のものを使用し、一部関係者からの提供を受けました。
- 一 本書の執筆・編集は栗焼が担当し、監修は「豊前市制五 周年記念事業実行委員会」が行いました。

ぶぜんの祭りの刊行を祝して



春まだ覚めやらぬ頃、豊前のシンボル求菩提の山には沢山の人が集まってきました。「求菩提の松」という春を呼ぶ祭りに、普段は人気のない山はにわかに活気付きます。そして、この祭りに呼び覚まされるように、町では祇園囃子が鳴り響き、豊前の町は祭り一色に染まるといっても過言ではありません。こうして人々はその年の五穀豊穡と一年の無病息災を祈り、神々を迎えその降臨を祝うのです。

祭りは古来、日本人の心のよりどころであり生活の節目として「ハレ」を祝うものです。わたしたちの故郷「ぶぜん」には先人から受け継がれてきた、そうした伝統が今も脈々と流れています。社会がどのように変化しようとも、

時代がいくら流れようとも、忘れてはならない日本の原風景が祭りではないでしょうか。

豊前市は昭和三〇年の市制施行以来、五年と言う年月を重ねてきました。そのあいだにも忘れ去られた祭りもあります。そうした古い伝統の継承と、新しい文化の創造が地域を活性化し、魅力ある街づくりにつながると思います。祭りは、そこに住む人々の心と心を繋ぎ、地域の歴史を紡ぐ大切な場として、これからも受け継いでいかなければならない祈りの文化ではないでしょうか。

秋、山合いや里の神社では神楽囃子が夜遅くまで奏でられます。一年の収穫を感謝し、一時の安らぎを求める人々の笑顔がそこにあります。老若男女、全ての人たちが幸せに、そして、故郷「ぶぜん」の素晴らしい文化を見つめる一冊として、本書がお役に立てれば幸いです。

平成一八年一二月

豊前市長 釜井 健介